

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 四日市市	対談項目1 産業振興について	航空・宇宙産業について 昨年度、企業立地促進条例を改正し、奨励制度の重点分野を指定して、企業立地奨励金を拡充交付する内容を新たに設けました。この重点分野における企業誘致の実績例として、東芝が新たな製造棟の立地を四日市市に決定しました。また、意欲のある中小企業が安心して海外進出できる環境をつくるため海外都市との経済分野における連携協定として、8月にベトナムに私自身が直接訪問し、国の計画投資省と覚書を取り交わす予定にしています。 今後、市内の企業が、成長が期待される航空宇宙産業やロボット産業に、新規参入する際の研究開発や認証取得に係る支援を本市も始めたいと考えています。しかし、特に航空宇宙産業は、参入するにあたって品質管理や認証取得が簡単に行えるものではなく、非常に参入障壁が高い産業と言われていています。	私どもも11月にベトナムに訪問する予定ですので、四日市市のフォローアップを行うとともに、観光の推進や三重県の食材の売り込みも行っていききたいと思います。ベトナムは、貴市や三重県に非常に縁が深いので、四日市市と情報共有してやっていきたいと思います。 航空宇宙産業については、平成27年3月に「みえ航空宇宙産業振興ビジョン」を策定し、5年で30社、10年で70社が航空宇宙分野に新規参入・事業拡大をしていただくことを目標に、人材育成、マッチングの支援、設備投資の支援に取り組んでいる。また、認証の取得についても、補助金を県で準備しているため、コンサルティングも含めてしっかり取り組んでいきたい。
2 四日市市		ロボット産業の介護分野等での活用について これらの産業へ新規参入を目指す企業への支援を行うためには、四日市市と三重県が、成長分野の産業の振興戦略を共有することが肝要だと思っており、相乗効果が得られるように、関連企業の発掘と育成を連携して行うなど、さまざまな視点から緊密に連携した取組を行っていきたく強く考えています。またお互いの産業支援制度も、一層の整合性を図りながら相乗効果を高め、企業が使いやすい制度にしていくことが重要だと思います。例えば、航空宇宙産業やロボット産業、あるいは水素活用産業といった将来有望な成長産業への支援、また製造業のマザー工場化への支援などにおいて、お互いに産業振興策・支援制度を企画立案していく段階から情報・意見交換を密にしていくことをぜひ提案したいと思います。	ロボットは、とりわけ介護分野での活用を期待しています。10月に津市で開催される認知症サミットでも、最先端のロボット技術を活かした介護・認知症対応も大きな柱になる予定ですし、また、この夏に行われた全国知事会での国への提言の中にもものづくり技術を使った介護、あるいは高齢者認知症対策強化も緊急提言として盛り込ませていただきました。また実際に、四日市市内の企業がセンサー技術を使って開発した転倒通報装置を県内の老人福祉施設で実証実験を行うなどの事例も生まれてきていますので、今後もさらに取組を進めていきたいと思います。
3 四日市市		水素活用産業について 水素につきましては、平成28年3月に「三重県新エネルギービジョン」を改訂し、平成27年3月に「みえ水素エネルギー社会研究会」を設立しました。四日市市も検討会を設置していただいたということで大変心強く思っていますし、本県も参画していきますので、ぜひ具体的な取組に係る連携を進めていきたいと思います。	水素につきましては、平成28年3月に「三重県新エネルギービジョン」を改訂し、平成27年3月に「みえ水素エネルギー社会研究会」を設立しました。四日市市も検討会を設置していただいたということで大変心強く思っていますし、本県も参画していきますので、ぜひ具体的な取組に係る連携を進めていきたいと思います。
4 四日市市		マザー工場化への支援について 県のマザー工場の補助金などを四日市市内の企業に活用していただいていますので、さらに四日市市の企業がマザー工場化していけるような支援を四日市市と連携して取り組んでいきたいと思います。	県のマザー工場の補助金などを四日市市内の企業に活用していただいていますので、さらに四日市市の企業がマザー工場化していけるような支援を四日市市と連携して取り組んでいきたいと思います。
5 四日市市		対談項目2 学力向上について 少人数学級に関して 昨年の11月に四日市市版の教育大綱を策定するとともに、その理念を踏まえ「学力向上アクションプラン」も策定しました。教育現場においては、電子黒板の全小中学校への導入や、読書の1分間コメント、JAXAとの連携協定を活用した「子ども科学セミナー」の開催などの取組や教室のエアコン整備も進めています。 現在、県では、小学校1・2年において30人学級、中学校1年において35人学級を実施していただいております。また、算数・数学・英語では少人数指導ができるように非常勤講師を配置していただいております。一方、本市では、小1プロブレム・中1ギャップに対応するために、県の措置に加えて、小学校1年生・中学校1年生で、市独自に下限を撤廃した形で30人学級を実施してきました。少人数学級、少人数指導の教育環境を整備することによる教育上の効果は非常に高いと思われることから、未来を担う子どもたちへの先行投資という観点で、子どもたちの学力向上のために、県が実施されている「みえ少人数学級」・「少人数加配学級」の制度をさらに拡充することを前向きに検討していただきたいと思っています。	本県では、小学校1・2年生での30人学級、中学校1年生での35人学級を全国に先駆けて実施してきました。特に平成24年度からは、国の加配定数も活用して、小学校2年生での36人以上学級を解消しています。また、下限25人の設定によって、少人数加配や非常勤講師の配置も一定の目的や意義を設定して、そこに加配することによっていけないといけないのではないかと考えておまして、ティーム・ティーチングや習熟度別の授業、他学年の児童生徒が混ざっている学級や少人数学級編成の対象とならない学級などに対して優先的に非常勤講師の配置や少人数加配をこれからは行っていきたいと思います。また、国にも学級編成標準そのものの引き下げなども要望していききたいと思います。厳しい財政状況であるが、少人数教育を後退させないように加配教員の確保にも努めていきたいと思います。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 四日市市	対談項目2 学力向上について	英語教育環境の充実について	<p>本市においては、学力向上アクションプランに英語教育環境の充実という項目を掲げ、中学校の卒業時に、日常生活に必要な基本的な英会話力を身につけることを目指しています。そのために、英語学習のステップアップを多角的・効率的にサポートできる英検IBAは高い効果があると考えているところです。</p> <p>昨年度の国の調査結果において、生徒の英語力が全国1位の千葉県では、英検IBAを中学校全学年で実施できるように平成27年度から県による予算措置を実施していると聞いています。真にグローバルな人材育成の基盤として、三重県においても中学校での英検IBAの実施に向けて計画的に検討いただきたいと思います。</p>	<p>県においても、CAN-DOリスト、全中学校対象の教員研修、英語キャンプ、英語でワン・ペーパー・コンテスト等さまざまな形で英語教育を推進させていただいていますが、中でも、モデル事業としていくつかの市町で実施いただいておりますレゴブロックを使ったStoryStarterというコンテンツを使っている英語教育はとりわけ好評を博しています。英語にふれる、英語能力を高めていく機会をたくさん作るということは重要であると思っています。</p> <p>IBAについては、我々も一定の効果があると認識していますが、外部検定試験を活用するということについては、いろんな各種検定試験の特徴や費用、各地域それぞれの生徒の状況といったこともありますので、全県一律というよりは、まずはIBAの特徴や費用に関する情報提供をしっかりとさせていただいたり、国の委託事業を活用した教員の研修を通じて、知ってもらうことからスタートしていければと思っています。四日市市が県内に先んじて英語教育を牽引する存在としてやっていただくことは、我々としても大変ありがたいし、大いに期待申し上げます。</p>
7 四日市市	対談項目3 シティプロモーションについて		<p>ここ数年、四日市市ならではの観光やシティプロモーションに力を入れてさまざまな施策に取り組んできました。いわゆる地方創生総合戦略の中にも、産業振興・教育・福祉など住みやすさのレベルアップに加えて、本市の場合はシティプロモーションを大きな柱として位置付けています。シティプロモーションは、単に地域の魅力であるとか地場産業をPRするというだけでなく、都市イメージの転換向上といった大きな目的を持っています。</p> <p>四日市市は県外に出ますとまだまだ「公害のまち」というイメージが残っているため、そこから脱却するために、これまで「公害と環境未来館」を中心とした情報発信や教科書の記述の改善、中心商店街のごみ集積場の美化、総合ごみ処理施設である四日市クリーンセンターの稼働などの施策や四日市港、あすなろ鉄道などの観光資源の活用、全国ファミリー音楽コンクールの実施などにより都市イメージの向上を図ってきたところです。</p> <p>先般5月の伊勢志摩サミットは、知事をはじめ多くの方々のご協力によって、安全かつ大成功の内に終了できたことは大変喜ばしく、そして今後の三重県の発展の大きな起爆剤になったと思っています。本市としても、四日市公害と環境未来館がジュニア・サミットの視察研修会場となって、その成果を今後のシティプロモーションや都市イメージの向上にも大いに活かしていきたいと考えています。</p> <p>本市のシティプロモーション施策をふまえ、例えば大規模な国際会議、あるいは外国のクルーズ客船の誘致を含めて、本市のポテンシャルを最大限活かした、県と市が連携していきべきシティプロモーションに関する取組について知事の考えをお聞かせいただきたいと思います。</p>	<p>インバウンドにつきまして、平成27年は県全体で39万人で、これは通年での対前年伸び率が全国2位でした。また、サミット決定後の7月～12月下半期の対前年伸び率は全国1位となっています。伊勢志摩にも多くの方が宿泊していらっしゃるイメージですが、実は北勢地域に外国人の皆さんをお迎えする玄関口であり、チャンス到来の時期であろうと思っています。</p> <p>その中で、四日市市は県内でも国際会議を開催するにあたっての会議施設に非常に恵まれている場所であり、また、外国人の方々が非常に好むシティホテルが多数立地していること、ナイトライフにも対応できるような居酒屋やバーが充実していることなど、MICEを誘致するにあたっての基本的なインフラとして極めて恵まれた条件であると思っています。伝統文化等も含めて非常にたくさん資源のある四日市市なので、ぜひ我々も連携してMICEの誘致に向けてしっかり取り組んでいきたいと思っています。四日市市のポテンシャルに大変期待をしております。</p> <p>外国クルーズ客船の誘致につきましては、四日市港客船誘致協議会に県も参画させていただいています。また、四日市港管理組合の今年度予算には、大規模客船の四日市港への入るための調査を計上していますので、調査の結果を踏まえて、そして、今回の国の経済対策でもクルーズ船誘致に一定の予算がつくようでありますので、それにもらみながら、四日市市と協力してクルーズ客船の誘致に取り組んでいきたいと思っています。</p>